

IFRS in Focus

IASBが、IAS第1号及びIAS第8号における「重要性がある」の定義の修正を提案する

注：本資料はDeloitteのIFRS Global Officeが作成し、有限責任監査法人トーマツが翻訳したものです。

この日本語版は、読者のご理解の参考までに作成したものであり、原文については英語版ニュースレターをご参照下さい。

トーマツIFRSセンター・オブ・エクセレンス

国際会計基準審議会（IASB）は、IAS第1号「財務諸表の表示」及びIAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」における「重要性がある」の定義の修正を提案している。当該提案は、最近の公開草案（ED）に示されている。

- IASBは、IAS第1号、IAS第8号及び近日公表予定の改訂概念フレームワークの「重要性がある」の定義を整合させることを望んでいる。
- 提案された変更は、現行の定義を修正し、簡素化すること、及び現行の文言の一部を定義に付属する説明パラグラフへ移動することを含んでいる。
- 本変更は、重要性の概念の変更や重要性がある判断もしくは財務諸表に重大な影響を及ぼすことは意図していない。
- 本公開草案は、IFRS実務記述書「重要性に関する判断の行使」の最終版と同時に公表された。
- コメント期限は2018年1月15日である。

なぜ修正が提案されたのか

IASBは、近日公表予定の改訂概念フレームワーク、開示原則のディスカッション・ペーパー及び重要性の実務記述書を含む様々なプロジェクトにおいて、「重要性がある」の定義について議論している。これらそれぞれのプロジェクトで使用されている定義及び説明は類似しているが、同一ではない。また、それらは既存のIAS第1号及びIAS第8号の定義とも異なる。

一貫性を促進するために、IASBは、異なる基準間の「重要性がある」の定義を整合させることを提案している。今回の提案のフィードバック次第で、重要性の実務記述書及び概念フレームワークに結果的な修正が行われる予定である。

定義案

現行のIAS第1号及びIAS第8号の「重要性がある」の定義は以下の通りである。

項目の脱漏又は誤表示は、利用者が財務諸表を基礎として行う経済的意思決定に、単独で又は総体として影響を与える場合には、重要性がある。重要性は、それを取り巻く状況において判断される脱漏や誤表示の大きさや性質により決定される。当該項目の大きさや性質、又はその両方が重要性を判断する要因となり得る。

改良された定義案は以下の通りである。

情報は、それを省略したり、誤表示したり覆い隠したりしたときに、特定の報告企業の一般目的財務諸表の主要な利用者が当該財務諸表に基づいて行う意思決定に影響を与えると合理的に予想し得る場合には、重要性がある。

今回の定義案は、既存のIFRSの要求事項に基づいている。新しい概念は提案されておらず、古い概念は削除されていない。それは、「重要性がある」をどのように解釈するかに関して、概念フレームワークで使用されている文言とIAS第1号における既存の説明的な要求事項の一部を組み合わせたものである。

実質的な変更

IASBは、基本の定義に3つの変更を行うことを提案している。

情報を覆い隠す

定義に「又は覆い隠す」を追加することは、重要性のない情報により重要性のある情報を覆い隠すことは、重

要性のある情報を省略することと同様の影響があることを明確にすることを意図している。

合理的に予想し得る

利用者の意思決定に「影響を与える可能性がある」から「影響を与えると合理的に予想し得る」へ閾値を変更することによって、IASBは、既存の文言が、たとえ可能性が非常に低くても、ほとんど何であれ一部の利用者の意思決定に影響を与える可能性があるため、あまりにも多くの情報を要求していると解釈される可能性があるという懸念に対処しようとしている。

主要な利用者

「利用者」ではなく「主要な利用者」と言及することによって、IASBは、どのような情報を開示すべきかを決定する際に、企業は財務諸表の主要な利用者（すべての利用者ではなく、既存及び潜在的な投資家、貸手及び債権者）を考慮すべきことを強調しようとしている。

見解

提案された修正は、基準間の一貫性を促進するこ

とを意図しており、重要性の根底にある概念を変更することを意図していない。したがって、IASBは、改訂された定義が、「重要性がある」の判断がどのように行われるかに影響を及ぼすこと、又は企業の財務諸表に重大な影響を及ぼすことは想定していない。

また、IASBは、2017年9月に実務記述書「重要性に関する判断の行使」を公表した。本文書は、どのように「重要性がある」判断を行うのかについてのガイダンスを含んでいる。詳細は関連するIFRS in Focusを参照いただきたい。

提案の時期

本公開草案は、修正案の発効日を特定していない。IASBは、本公開草案について受け取ったコメントを検討した後に発効日を決定する予定である。

IASBは、本修正は、将来に向かって適用すること及び早期適用を認めることを提案している。

コメント期限は2018年1月15日である。

以上

デロイト トーマツ Webサイトのご案内 IFRS/国際財務報告基準(国際会計基準)
<http://www.deloitte.com/jp/ifrs/>

デロイト トーマツ グループでは、統一した高品質のIFRS関連サービスを広範に提供することを目的として、IFRSの専門家集団、「トーマツIFRS室」を設置し、Webサイトでも最新の情報発信や各種サービスの提供を行っています。ぜひご活用ください。

- デロイト トーマツのIFRSサービス

デロイト トーマツのIFRSサービスの特徴/IFRSサービスメニュー/IFRS導入の指針

- IFRSとは

IFRSの歴史/IFRSの構成/IFRSの特徴/各国のIFRS適用状況/IFRSをめぐる日本の動向/IFRS関連略称

- 解説記事

IFRS基準別の解説/IFRS公開草案等の解説/IFRSと日本基準の会計基準差異/IFRS業種別トピックス/IFRS関連ニュースレター

- セミナー

IFRSセミナー/IFRSオンラインセミナー

- 出版物

市販書籍/デロイトの出版物

お問い合わせ先 トーマツ IFRS室 Tel:03-6213-1168 E-mail:jp_ifrs_service@tohatsu.co.jp